

令和7年度 青森山田中学校 自己評価結果

(5段階評価:Max5)

大項目	小項目	内容	平均点	前年	前年との差
1 共通	A	教育への情熱を持ち私学人としての基本的な職責や義務を自覚して職務に取り組んでいる。【責任感・服務規律】	4.00	3.93	0.07
	B	組織の一員として自覚を持ち、職務の円滑な遂行のため、職員や管理職との意思疎通を図り、連携・協力している。【協調性】	3.93	3.80	0.13
	C	担当する職務の目的を認識し、常に改善に関する課題意識を持って、積極的に取り組んでいる。【積極性・向上性】	3.87	3.87	0.00
	D	自己の能力向上のため、自己の啓発や研修に努めている。【向上性・忍耐力、継続性】	3.47	3.53	-0.07
	E	困難な課題や状況に直面しても、冷静かつ柔軟に粘り強く対応している。【責任感・忍耐力、継続性】	3.87	4.00	-0.13
1 共通平均の平均			3.83	3.83	0.00

結果についての分析と改善策

分析:令和7年度の自己評価結果は、全体平均3.83で前年と同水準であった。責任感・服務規律や協調性は高評価であり、特に協調性は前年より向上していることから、組織内の連携やコミュニケーション改善が進んでいると考えられる。一方で、自己啓発・研修への取り組みや困難な課題への対応力は低下しており、業務多忙による負担感や心理的余裕の不足が課題として見受けられる。組織基盤は安定しているが、教職員の成長支援と負担軽減が必要な状況である。

改善策:今後は、教職員が無理なく学び続けられる環境づくりが重要である。短時間研修や実践共有型の研修を取り入れ、学びを現場で活用できる仕組みを整えることで、自己啓発への意欲向上が期待できる。また、困難な案件を個人で抱え込まず、管理職や同僚へ相談しやすい体制を整備することが必要である。さらに、協調性向上の成功要因を分析し、情報共有や対話の機会を継続的に充実させることで、組織全体の活性化と働きやすい職場環境の形成につなげたい。

大項目	小項目	内容	平均点	前年	前年との差
2 (教科指導 ・ 総合的な探究の時間)	F	教科・科目等の目標に従って指導計画を作成し、適切な教材研究のもと、計画的な指導を行っている。【知識・情報収集、活用力・分析力、理解力・判断力、企画力・計画力】	3.80	3.60	0.20
	G	生徒の発達段階や興味・関心、学習内容に理解度をよく把握している。【知識・情報収集、活用力・分析力、理解力・判断力】	3.73	3.73	0.00
	H	教科・科目に関する専門的知識・技能を活用し、生徒一人一人に分かる授業を行っている。【知識・情報収集、活用力・分析力、理解力・判断力】	3.67	3.53	0.13
	I	生徒の学習状況を的確に評価し、保護者に対して適切に説明している。【知識・情報収集、活用力・分析力、理解力・判断力、折衝力・調整力】	3.47	3.53	-0.07
	J	【2の実績】自己目標を達成した。(自己目標の取組結果/質・量)	3.67	3.67	0.00
2 学習指導の平均			3.67	3.61	0.05

結果についての分析と改善策

分析:令和7年度の学習指導に関する自己評価は平均3.67で、前年より0.05ポイント向上しており、全体として着実な改善が見られる。特に、指導計画の作成や教材研究(F)が大きく向上し、授業準備への意識が高まっていることがうかがえる。また、専門的知識を活用した分かりやすい授業(H)も改善しており、授業力向上への取組が成果として表れている。一方で、生徒評価や保護者への説明(I)はやや低下しており、評価方法の明確化や説明責任の充実が今後の課題である。

改善策:今後は、向上が見られた教材研究や授業改善の実践を教員間で共有し、組織全体の授業力向上につなげるのが重要である。また、生徒理解をさらに深めるため、日常的な観察や対話を充実させ、個々の学習状況に応じた指導を強化したい。特に課題である評価と保護者説明については、評価基準の共通理解を図り、説明資料や面談機会を工夫することで信頼性を高める必要がある。継続的な研修と情報共有を通して、指導の質をより一層向上させることが求められる。

令和7年度 青森山田中学校 自己評価結果

(5段階評価: Max5)

大項目	小項目	内容	平均点	前年	前年との差
3 (特別活動・H・R活動・生徒指導)	K	学級の教育目標、経営方針に即し、生徒の実態を踏まえた学級経営を行っている。【知識・情報収集、活用力・分析力、理解力・判断力、企画計画力】	3.80	3.73	0.07
	L	家庭と連携し、的確に状況を把握し、生徒理解を行っている。【知識・情報収集、活用力・分析力、理解力・判断力】	3.87	3.67	0.20
	M	生徒指導等に関する専門的知識・技能を活用し、生徒理解に基づいた計画的な指導を行っている。【知識・情報収集、活用力・分析力、理解力・判断力、企画計画力】	3.73	3.60	0.13
	N	生徒の状況や指導方針について、保護者に対して、適切に説明している。【知識・情報収集、活用力・分析力、理解力・判断力、折衝力・調整力】	3.67	3.73	-0.07
	O	生徒一人一人の能力・適性等良く理解して、キャリア教育を推進するとともに、適切な進路指導を行っている。【知識・情報収集、活用力・分析力、理解力・判断力】	3.73	3.67	0.07
	P	【3の実績】自己目標を達成した。(自己目標の取組結果/質・量)	3.60	3.67	-0.07
3 学級経営・生徒指導の平均			3.73	3.68	0.06

結果についての分析と改善策

分析:令和7年度の学級経営・生徒指導に関する自己評価は平均3.73で、前年より0.06ポイント向上しており、全体として改善傾向が見られる。特に、家庭との連携による生徒理解(L)が大きく向上しており、保護者との関係づくりや情報共有が充実してきたことがうかがえる。また、生徒理解に基づく計画的な指導(M)も向上しており、生徒指導への意識の高まりが見られる。一方で、保護者への説明(N)や自己目標達成(P)はやや低下しており、指導内容の共有や成果の可視化が課題である。

改善策:今後は、向上した家庭連携の取組を継続し、保護者との情報共有や相談体制をさらに充実させることが重要である。また、生徒一人一人の状況を教職員間で共有し、組織的に支援できる体制づくりを進めたい。課題となっている保護者への説明については、面談や連絡方法を工夫し、指導方針や生徒の成長を丁寧に伝えることが求められる。さらに、自己目標の達成に向けて具体的な行動計画を明確化し、定期的な振り返りを行うことで、学級経営と生徒指導の質の向上につなげていく必要がある。

大項目	小項目	内容	平均点	前年	前年との差
4 (校務分掌・学年経営・家庭との連携)	Q	分掌した校務の意義や役割を理解し、事務処理等に関する基礎的な知識を有している。【知識・技術、情報収集・活用力、分析力・理解力、判断力】	3.60	3.93	-0.33
	R	分掌した校務について、他の職員と連携を図りながら、計画的に遂行している。【企画・計画力、折衝力、調整力】	3.87	3.80	0.07
	S	学校運営上の課題や自らの役割を理解し、学校教育目標や生徒の実態に応じた企画・立案を進めている。【知識・技術、情報収集・活用力、分析力・理解力、判断力、企画・計画力、折衝力、調整力】	3.67	3.73	-0.07
	T	家庭との連絡協力等適切に行っている。【知識・技術、情報収集・活用力、分析力・理解力、判断力、折衝力、調整力】	3.73	3.73	0.00
	U	【4の実績】U 自己目標を達成した。(自己目標の取組結果/質・量)	3.67	3.87	-0.20
4 学校経営の平均			3.71	3.81	-0.11

結果についての分析と改善策

分析:令和7年度の学校経営に関する自己評価は平均3.71で、前年より0.11ポイント低下している。特に、校務に関する基礎的な知識や事務処理能力(Q)が大きく低下しており、業務の複雑化や負担増加が影響していると考えられる。一方で、他職員と連携した校務遂行(R)は向上しており、組織的な協力体制は維持されていることがうかがえる。また、家庭との連携(T)は前年同様の水準を保っているが、自己目標達成(U)の低下から、業務遂行に対する達成感や余裕の不足が課題として見られる。

改善策:今後は、校務分掌に関する知識や事務処理能力の向上を図るため、業務マニュアルの整備や実務研修の充実を進める必要がある。また、業務を個人に集中させず、情報共有や役割分担を明確化することで、負担軽減と効率化を図りたい。さらに、連携体制の強みを生かし、教職員同士が相談しやすい環境づくりを継続することが重要である。自己目標については、達成可能な具体的な目標を設定し、定期的な振り返りを行うことで、学校経営への主体的な参画意識を高めていく必要がある。